

及び國際間に如何なる協調契約の締結せらるゝ共に將來遠大の經綸を有する事我國の如く未だ産業幼稚の域を脱せざる事我國の如きにおいて徒に他先進國に附和雷同して爲に百年の將來に向つて憂患を残すか如きは國民の堪へ難き事なれば勢ひ保護政策の緊切なる必要を見るべきは明かなり、而して今之を戦後の我國に考ふるに先づ第一著に其要を見るべきもの蓋し製鋼業に若くものなかるへし、工業原料とし日常生活の必須品として鐵鋼の如何に重要な地位を占むるやは既に何人も之を知れり、戦前は我國の斯業は頗る幼稚にして製鐵業と云ひ、製鋼業と云ふも未だ以て工業界の中堅として認めらるゝに至らず民業として之に従事せるもの殆んど皆無に等しき状態にありしか、時局に基ける供給の不足と價格の昂騰とは遂に自給策を講ずるの機運に達し近時更に一步を進めて將來に於て自給を全うするの希望を認め得たりと雖も而も未だ之を世界市場競争に放任するを得ず、結局今後或期間中は國家の保護の下に置さて充分なる發展を遂けしめざる可からず而も此際に當りて吾人の最も憂ふる所は實に國民並に時の當局者の覺悟如何にあり、前述せるか如く自國産業發達の爲めに關稅に障壁を設けて外品の輸入を不自由ならしむるに當りては勢ひ國民は其日常の生計に於て多少の負擔を加ふるべきを免れず、加ふるに鐵鋼等の如く工業の重要原料にありては幾多の工業家は自家所用原料品の購入に高價を支拂ふの要あるを以

て共に相呼應して其實施に反對運動を開始する事なしとせず、國民にして今次の歐洲戰亂か如何に悲慘の極なりしかを知り、重要物資を自給し得ざる國家が如何に哀れなる末路に到達せざる可からざるやを悟り、而して鐵鋼が時局と如何に重要な關係ありやを究め更に斯かる經驗が如何なる教訓を吾人に指示したるやを悟らんには夙に國家に軍隊の存在を肯走し、艦艦一隻に數千萬圓の國帑を投ずるを敢て否議せざる國民は、之をしも有名無實たらしめざるか爲に重要缺く可からざる鐵鋼業獨立の大策に對して暫らく忍耐するの勇あるべきを疑はず、然りと雖も目前の小利の爲に永遠の大計を誤り易きは世弊の極致なれば吾人は今よりして豫め國民の覺悟を促すと共に一般人か現今帝國の製鋼製鐵業の概要を知り置くは又國民道德の一端たるべきを信して疑はざるなり。

斯くの如き重要な意義に於て本邦の製鋼界を見渡すに當りて其經營の堅實、生産額の豊富、信用の絶大、將來の期待等の諸要件を兼備せる斯界の權威として推稱に價するものに株式會社大島製鋼所あり方今同社の工業界、殊に製鋼業界に於ける信用と期待とは恐らく幾多の同業者中に冠絶すべしと雖も同社の經營方針の極めて地味なる好んで名を求めず、着々として唯一途自家の生産額の増進と品質の改良に努むるの結果延いて一般世人は其内容を聞知するの機會に乏しく、吾人か茲に筆を起して其沿革、經營者、設備、

生産能力、製品等の大要を略述せんとするもの蓋し之を以て甚たしき遺憾事となすに因ればなり

△沿革 大正四年、東京製鋼株式會社は鋼索材料自給の目的を以て九州小倉の製鋼所を設置すると同時に鑄鋼品の製作を企圖し同年末、東京小名木川通り大島町に地を占して大島製鋼所を新設し急遽建築工事に着手したるか右は翌五年六月に及びて其製品を市場に供給するに至れり、爾後約一ケ年半、専ら製鋼作業に従事したる結果幾多の經驗を得、技倆又大いに進み、同時に營業上の秩序も漸次整頓の域に達し前途に充分の光明を認めたれ共本事業の性質は更に巨額の資本を要し到底附屬分工場として經營すへきにあらずるを察し大正六年十一月に及びて同社は其一切の權利義務と共に營業權全部を新會社たる株式會社大島製鋼所に譲り渡せり、茲に於て新會社は銳意改良方法を講し經營方針を一新し買収工場に擴張を加へたる爲生額順に増大し遂に斯界に名聲を馳するに至れり、試みに本年四月を以て終れる第一回決算を見るに同社は同期間中に於て約七十三萬圓の利益を挙げたるか其大部分たる四十萬圓を固定資産の償却に充當したるは又堅實なる處置と云ふべく本期に於ては營業の狀態益々順調なるを以て製産額も従つて前期に増し更に良好なる成績を挙げつゝあるは疑ひなき所にして特に前會社時代に於て米國に注文したる巨大なる水壓鍛鍊機（二千噸プレス）は本年同工場に到着して新勢力を加へたり、

同機か本年始め米國に於て製造竣工するや米國政府は同國大使館を経、我外務省に向ひて之を自國軍事用の爲め米國內に留保せん事を交渉し來りしか該機は本邦兵器製造の爲め必要機として既に幾多の計劃準備を施しあるの故を以て更に米國政府に懇請し漸くにして其輸出許可を得たるものにして、一臺の機械にして斯の如く數回兩政府間に折衝を重ねたるものは其類稀なりと云ふへし、誠に此機械こそは關東唯一の大機械にして同社か去年末より工場全般に亘りて大擴張を企畫し即ち二十五噸シーメン爐、二瓦斯灼熱爐の増設、鑄鋼場及び機械工場の擴張、四十噸クレイン其他仕上機械類の増備等も此大機械をして全幅の能力を發揮せしめんか爲に他ならざりしなり、而して之等の増設工事は去る九月中を以て一先つ落成を告げたるを以て同社の生産能力は本月に入りて數段の増加を見たる譯なり。

△資本金額 は六百萬圓にして大正六年十一月一株に付十二圓五十錢合計百五十萬圓を拂込み更らに本年七月一株に付七圓五十錢合計九十五萬圓の拂込をなしたるを以て拂込済總計二百四十萬圓となれり次ぎに同社の經營者は左の如し

取締役社長 大川平三郎

常務取締役 工學士 松野千勝

取締役 田中榮八郎

同 白石元治郎
同 大倉發身
同 工學士 黑板傳作
同 工學士 原正幹
監査役 澁澤武之助
同 山田馬次郎
同 綿貫吉秋
相談役 男爵 大倉喜八郎
同 淺野總一郎
技術顧問 今泉嘉一郎
工學博士
付いて見るに重役の選定配合は實に幾多の工業會社中優に
範たるに足り、悉く本邦有数の事業家を網羅し配するに卓
越せる技術家を以てせり、蓋し大企業家大川氏の統括力は
學術經驗兼備の常務松野氏をして經營上に遺憾なからしめ
更に相談役として大倉、淺野の兩雄を控ふるあり、其堅實
以て知るべく之に加ふるに斯界の權威たる今泉博士を最高
技術顧問として囑託するもの、其計畫と經營に遺憾なきを
疑はす、而も是等の諸重役は悉く空名に非ずして毎月數回
全員會合して商議せりと聞く其用意と期待以て知るべきな
り、次に同社工場的位置と設備を述べれば同社は東京府下
南葛飾郡大島町四丁目、小名木川北岸にあり本所菊川橋市
内電車終點を距る約十八町、敷地約二萬五千坪、建坪四千
五百坪にして構内には專用の大入堀を設け加ふるに縦横に

軌條を敷施したるを以て重量物の運搬上毫も遺憾なし。
工場は木型、汽罐、電氣、瓦斯發生所、熔鋼、鑄鋼、水
壓鍛鍊、汽鎚鍛鍊、機械、材料試驗、鋤試驗、分析、製銑
の十三種に分れたるか之に備付せる重要施設は

圓筒式汽罐

四基

水管式汽罐

貳基

瓦斯發生爐

七基

十五噸シーメン式平爐

貳基

廿五噸同

一基

製銑爐

一基

燒鈍爐

二基

六百噸水壓鍛鍊機

一基

一千噸同

一基

二千噸同

一基

瓦斯灼熱爐

十五基

汽鎚一噸半、二噸、半噸

三臺

四十呎旋盤以下大型工作機械機

百臺

四十噸以下電働起重機

十七臺

十萬磅ヲルセン試驗機

一臺

七十五噸掛鉤試驗

一臺

等なり、之等の設備より生ずる

△製造能力は

一ヶ年製鋼額

四萬噸

鑄鋼品最大重量一個
鍛鋼品同

二十五噸
十五噸

等なるか其營業品目は造船、造兵、造機、鐵道、鑛山、電機用鑄鋼及鍛鋼品の製造並に加工作業にして今製品の重なるものは左の如し。

重要製品

造船 船首材、船尾材、舵骨舵柄、舵頭、錨、ホーズパイプ、フエヤーリーダー、ボルラード、ダビット、スターンチューブ、シャフトブラケット等

造兵 砲架、砲鞍、駐退筒、水壓筒、魚雷發射管、氣蓄器、轆輪、轆輪盤其他砲架及揚彈藥裝置用鑄鐵鍛鋼品

造機 ビストン、ピストンロッド、クロスヘッド、コンネクチングロッド、スライドロッド、エキセントリッククランク、エキセントリックストラップ、クランクシャフト、スラストシャフト、プロペラーシャフト、タービン用ローター、ローターシャフト、蒸汽弁、蒸汽管、大小各種齒車、大小金敷、各種ロール、タイヤー及クラツシヤ、浚渫船用バケット、タムブラー、大小フライホイール等鐵道 ホキノルセンター、ドライビングホキノル、タイヤー、バツフワーケース、ドローフック、アキジルボックス、イコライザー、車軸等

鑛山 コムバーター、ポット等の如き大形鑄鋼品

電機 ボールプレート、ヨーク、フキールドスバイダー、

マグネットフレーム、水車用ケーシング、カバー、ガイドベーン、ランナーデスク、ブランチパイプ等其他

其他 大小各種ブルーム、インゴット而して之等多數の製品はロイド協會検査員、帝國海事協會検査員及帝國海軍并に鐵道院等の嚴重なる検査を受けたる後出荷しつゝあり、其主たる得意先は各海軍工廠、鐵道院遞信省、陸軍砲兵工廠、内務省、土木局、各造船所鑛山諸機械製造工場等とす。

△職員及職工 同社工場の社員及職工は互に能く融和して曾て忌はしき同盟罷工沙汰等を起したる事なく、米價騰貴の爲め八月中旬諸方に暴動、罷工等の續出する以前に於て既に同社は職工の家計を慮り逸早く一升三十錢の白米を廉賣せるか引續きて之を實行しつゝあるか如き以て職工に對する同情心の一端を窺ふに足るへし、現今同社には技術部員四十九名、事務部員四十三名、職工千三百人等なるか其重要職員は左の如し。

一一六

技師長	松村 六郎
製鋼課長	諏訪常次郎
鍛鍊課長	宇佐美豐次郎
機械課長	船木章三郎
營業課長	渡邊行太郎
庶務課長	笠原敬輔
會計課長	野田董吉

倉庫課長 關野龍男

△多望の將來 同社の營業力針が極めて堅實正確なること前述の如く方今世上に簇出する所謂成金會社と全然其面目を異にし毫も浮華輕佻の觀なきは即ち同社根本の大方針とも云ふべく一切の誇大的廣告投機的行爲等を避け常に財界の狀態に鑑み未來の傾向を洞察して萬遺憾なきを期すると共に國內製鋼業獨立てふ大主眼に向つては萬難を排して猛進し孜々として改良進歩を計り冗費を節し、利益金の大部を社内に留保し戰後當然來るべき斯界の難境に對し泰然自若たるの素地を固めつゝあるか如き斯界稀なる用意と云ふべく、吾人は近き將來に於て本邦の製鋼業か一大難境に立つべき世上の豫測に對して異論なきものなれ共而も其秋に當りて好く難關を突破し更に將來の大飛躍をなすの堅實味と用意遠慮を有する大島製鋼所の如きあるを知り大いに意を強くすると共に其將來の發展を祈りて止まざるなり。

●鋼板製作に成功したる東海鋼業株式會社

困難なる斯業の經營。生産能力年額五萬噸

日本鋼管株式會社の設立によりて鋼管製作に成功し本邦の鐵鋼業に新生面を開きたる大川平三郎、白石元治郎、田中榮八郎氏等は更に一步を進めて至難事業として民間に未だ着手の前例なき鋼板の製作を企圖したりしか偶々政府に於て八幡製鋼所鋼片民間拂下の報を得たるを以て茲に實現

の曙光を認め爾後幾多の迂餘曲折を経て遂に作業の開始を見るに至れり、之茲に述へんとする東海鋼業株式會社に他ならすして同社は創立の當初に於て製鋼業中最大困難の作業たる鋼板製作に成功を見んとするには勢ひ非常の困難に遭遇すべきを知れりと雖も製作の困難なりてふ理由の爲めに此儘放任し置くは將來本邦工業界の爲めに永く憂ひを残すものなるべきを察し萬難を排して初志の貫徹を期したるものなるか設備完成して其作業を開始したる現在に於ては毎月約千噸の鋼片を消費しつゝ七八百噸の生産をなすに至れり、同社は政府より鋼片の拂下けを受くる契約なれ共其數量現在毎月一千噸を出てすして所要の半に達せず未だ充分なる作業能力を發揮し能はざるを以て將來は其自給を計るの要あり目下之か自給策を講しつゝありと云ふ、同社は初め横濱に地を卜し工場の建築に従はんとしたるか其地層頗る軟弱にして作業上不適當と認たるを以て更に之を九州若松市濱の町に選定せり、同地は地層堅固にして海岸に面し水陸交通の便頗る可良、工場地として最適の地なるを以て一萬五千坪の大地域を購入し急遽工場の建設に着手し、工を急ぎたる結果本月六日遂に製板工場の完成を見るに至り茲に初めて民間製作最初の鋼板を市場に供給するに至れるが引續き中型工場も完成の域に達せり。

今作業の實績を見るに極めて良好にして其製品の優良なること、經驗多年、投下犠牲の莫大なる官業八幡製鋼所の

それに遜色なく、初め其成績を危ふみたる幾多の工業家も此意想外なる好成績に驚嘆し現今に於ては製鋼所製品と同一なる取扱をなしつつあり、更に

△設備の大様 を見るに主要工場は製板工場及び中型工場の二なるか壓延作業の爲め前者は七百五十馬力のモーターを後者は一千馬力のモーターを設備せるか製板工場一ヶ年間の生産能力は約一萬五千噸にして中型工場の能力は約三萬五千噸なるを以て之を合する時は約五萬噸の製造能力を有する勘定なり、而して前述せる如き原料の供給不足は到底現狀に甘んすへからざるを以て目下一千基の自家用發電機の据付工事中に屬し、漸次不足鋼片の自給に歩を進むべく之等所要の資金として近く第二次の拂込金七十五萬圓を徴収するの運びにあり即ち同社現在の資本金額は

△三百萬圓 にして内拂込済は百五十萬圓なれば之に前記新拂込を追加すれば二百二十五萬圓の拂込ある勘定にして同社は今後込金の拂追徴を行ふと共に益諸方面に擴張を來すへし、其製品は専ら鋼板に限られ現今に於ては最大なるもの幅五尺、縦十尺なれ共將來は長尺物を製出するの計劃なり。

△斯業の難點 茲に更めて説明の要なき事ながら鋼板製作の爲めには二個の絶對的必要條件あり、其一是優良の原料にして他は優秀なる技術之なり、此等の二者を備付する事の困難なるは現今鋼板の需要か各般に亘りて旺盛を極め事

業として甚た有望なるにも拘はらず未だ何者も之に着手せざりしに徴するも明白にして之を企圖するものも漫然之に従事するを得ず非常の決心と充分なる確信なるか可からず今や企業經營の第一人者として推さるべき大川平三郎氏の之を劃するあり蓋し此用意に遺漏ある可からず、即ち八幡製鋼所か官業として多年來斯業に従事し幾多の艱苦を経て成功したる鋼片は其品質に於て到底近日簇生の諸製品と同一に非ず、之か拂下けを受くるは少くも試験時代最大の強味と云ふべく加ふるに其技師、職工も多年經驗ある同所の従業者より得たるを以て茲に二大要件は既に具備せられたりと云ふべく、現今と雖も同社は絶えず見學職工を製鋼所に派して研鑽を重ねつゝあるなり其製品の市場に好評を得たるは又故なしとすへからず、吾人は同社の斯かる成功を祝福するに吝ならざると同時に譬へ歐米品を凌駕する優良品を製作すると雖も尙ほ其前途には安心するを許されざる國內原料給難の潜在せるを想ひ同社か飽く迄初志の貫徹を計り本邦の斯業をして完全なる自給の域に到達せしむる爲めに萬難を排して最後迄猛進を續けられん事を期待する者なり因に同社重役は左の如し。

社長	大川平三郎
取締役	田中榮八郎
同	白石元治郎
同 技師長	片山謹一郎

●奉天附近の鐵鑛業

同工學博士 西 大 助
同 下 郷 傳 平
監 査 役 大 西 正 雄
同 長 谷 川 太 郎 吉
同 宇 都 宮 金 之 丞

現に設立中なる鞍山站に於ける大製鋼所は南滿洲鐵道會社の經營にして順撫、本溪湖に於ける者と相並ひて南滿洲工業發達上に及ぼすところ至大なりとす。安奉線鐵道沿線なる本溪湖煤鐵公司是明治三十八年の創立なるか其後事業次第に擴張し明治四十三年に至り同支店並に組織を變更して數次増資を行ひ現今に於ては八百萬元の資本金を有し同社は採鐵を主要事業となすを以て本年度に於て新に鑄爐機を据付け一箇年銑鐵五萬噸乃至十萬噸を產出し得へしと。

上述鑛區地方は漸次一大工業發達の中心點となるべし即ち鞍山山脈一帯に圍繞せらるゝ地方にして南は遼陽縣に、東は本溪湖、北は撫順、西は南滿沿線に及ぶ。同地方は石炭鐵、石灰等の鑛脈を有するのみならず又潤澤なる水量を有するを以て是等の事實が事業經營上裨益する所多大なりと云ふべし而して上掲諸事業中鞍山站製鋼所は最も重要な事業と看做され居れり抑々從來の戰勝に必要な唯一の要素は金力なりしが今回歐洲戰爭の經營に鑑みて鋼鐵なるも

のか今日の戰勝に欠くへからざる要素となりて最早や今日の國家は鋼鐵を有せずして一日も獨立生存の不可能なるを立證したり故に製鋼事業は商業的に重要なると同様に政治的にも其重要なるを感ずるに至れり。今や日本か一大努力を以て經營に着手せる鞍山站製鋼所は遼陽の南方立山驛に設立せられしが該工場は五千の支那勞働者及二千の日本勞働者を收容するに足るへき設備をなし又是かために附近は新に一市街を形成すへしと云へは該規模の宏大なる一端を窺知し得へく該事業は大正七年に開始し年額十萬噸を產出せしむべき計畫にして鑛區は附近一帯十哩餘に延長し居り鐵鑛の採掘は日支合辦なる鞍山站興鑛公司之に従事せり該公司是南滿洲鐵道會社を加入したる日支合辦組織にして其採掘せる鐵鑛は全部鞍山站製鋼所に引渡すへき契約の下に成立し居るものなりと云ふ。

●鳳凰山鐵鑛近情

本鑛山は曩きに袁世凱氏大總統たりし時代大倉組が其開發の爲め支那ミンデケートに對し百弗の貸付を行ひたるも此借款契約は支那政府に於て之を認めず前農商總長周自齊張國塗、谷鍾秀、及田文烈等何れも之を承認せず反て時の政府は日本に對し之を返還せんことを申込みたるか日本は最後には之を支那側に於て認むへきことを期待して其返還を受けんとはせざりき然るに現政府亦之を拒絶したりし

か今や政府は戰時策として同問題を農商部管轄より陸軍部へ移すことに協定し陸軍部は直ちに日本政府と協議して共に同にて鳳凰山に製鐵所設立のことを協定し鑛山の採掘は支那人のみに之を許可し製鐵は日支兩國人間に於て之を營み本事業經營に要する二千萬圓は日本側より之を支出することに決定せりと云ふ。大倉組は前述百萬弗の借款に關する權利を日本政府に移したるものゝ如く左れば本問題は玆に兩國間の軍事案の一となれるに至り、日本側に於ては採鑛、製鐵兩方面に參與せむことを希望し居れとも支那側に於ては之を喜はず目下政府は該鐵山の開發並に製鐵所設立に對し三十萬圓の貸付をなさんことを申込み。同山の鑛量は一鐵山としては從來支那に發見せられたるものゝ内最大のものにして其鑛石は硫黄分の含有量五千萬噸と稱せられ歴代の農商部は之を以て揚子江流域に於ける工業發展の最大要件として極力之に外國勢力の侵入を防かむとしたるなり。英國下院に於て内務次官は、某議員の質問に、政府は未だ日本か鐵鑛採掘權を獲得せりととの報に接せずと答へ尙ほ同鑛山は英國政府が常に特殊利益範圍なりと思惟する揚子江流域に位する者なれば苟も支那に於ける利益範圍に對する國英は他國の主張か門戸開放の主義と相背馳してまて強いものなりとは思惟せずと附加せり。

●電氣かコークスか鐵界の大革命

中部日本に雄飛すべき木曾電氣製鐵株式會社

人類の生存上必要缺くべからざるは衣食住の三つてなければならぬ之を稱して人類生存上の三大要素と呼んで居る然らば此人生に最も大切な三つの要素に共通して何れも其主要なる基礎を形成する所のものは何かと云へば夫れは云ふ迄もなく鐵でなければならぬ若し夫れ吾人の周圍を一瞥せんか吾々か着けて居る衣類の凡ては悉く針や鋏や鋸杯云ふ鐵の製品から裁たれそうして縫はれて居るてはないか又吾々か朝夕口にする食物はどうてあるか之れ又鍋釜庖丁等種々の鐵器に依つて調理されて居るてはないか更に又住居はどうか云ふ迄もなく衣食以上に鐵の御厄介になつて居る事は今更喋々の必要はない位である果して然らば鐵か人生に必要缺くべからざる者て之れを大にしては社會萬般鐵なくして存立して居るものは一つもないのである試に見よ國家か唯一の頼みとする武器か夫れてはないか船も車も諸機械も皆悉く鐵ではないかさればこそ世人は今日の時代を鐵器時代と呼んで居るのである今之れを我國の現狀に徴するに鐵の需要は最近に至つて凄しいばかりの激増を來し遂には忌まはしい疑獄事件をさへ惹起した位の有様で鐵材不足の聲は日と共に高まりつゝあるてはないか畢竟之れは供給の不足換言すれば製鐵所の不足に胚胎して居るのである實際今我國に於て製鐵所として見るべきものは九州八幡の官立製鐵所と之れも又近く九州に開設されんとする東洋

製鐵會社の工場位のもて何れも皆石炭供給の關係上本邦西南の一角九州の地に存立されてあるのである然りと雖も吾人は此人生に最大必要なる鐵の供給を僅に九州一角の製鐵所にのみ依頼する譯には行かぬ況んや製鐵用「コークス」に適する炭量の比較的豊富ならざる今日何れの日か石炭缺乏の時機に到達しないとも限られない斯く觀し來れば我々日本國民の前途も又鐵の爲めに頗る不安を感せずには居られないのである然るに茲に幸なる哉石炭に代るに電氣を以てする製鐵業か本土の中央即ち中部日本の咽喉部に現はれて斯界の爲に一大飛躍を試みる事となつたのである此製鐵業の本體こそ即ち木曾電氣製鐵株式會社と稱するもので電氣爐を以て礦石から銑鐵を作り更に鋼を製する事業か研究時代から實行時代に移つた今日同會社では中部日本を貫流する木曾川の豊富な水力を利用して之から電氣を起し製鐵製鋼事業に使用する外一般電燈動力用として名古屋電燈株式會社へも所要の電力を供給する事になつたのである。

今同會社計畫の概要を聞くに同會社か木曾川矢作川水系に於て發生する電力は一部は一般電燈電力用として名古屋電燈株式會社に賣却し一部は之を製鐵製鋼用に供するのである其製鐵事業と稱するは即ち電力四萬キロワットを以て鋼材製品年額十萬噸を製産するので此事業を二期に分ち第一期事業としては電力最大二萬キロワット（平均一萬五千キロワット）を以て銑鐵四萬五千噸を作り之れに依りて鋼

材製品四萬噸を製出し内二萬五千噸は製艦及び造船用諸鋼板類に充つるのであつて第二期に至つては第一期事業に比して一倍半の能率を生ずべき設備をなす豫定である然も同會社では既に本年七月中工事費三十萬圓の經費に依つて電力二千キロワットを以て銑鐵を製出すべき電氣爐を名古屋東築港五號地に建設し着々として所期の發展に向ひつゝあるのであるか既設矢作川串原發電二千キロワットの外木曾川賤母一萬二千六百キロワットは本年中遅くも來春には其竣成を告げやうとして居る以上兩者の工事費は總て合て五百七十萬圓て其電力電氣爐には用ゆる外確定したる料金を以て全部之れを名古屋電燈株式會社に賣渡するのである尙ほ同會社では以上の外矢作川串原の下流に五千キロワット木曾川讀書二萬二千五百キロワット大桑第一、二萬七千二百キロワット大桑第二、八千六百キロワット等を漸次起工する運びになつて居る抑電氣製鐵事業の成否は主として電力料金の高低如何に存するのであるか以上同會社か計畫せる各發電所は水量落差等の關係に於て最も理想的にして且つ水源及び沿岸は木曾御料林であるから渇水の憂ひ少く然も其位置に至つては何れも中央線の沿道にありては運搬至便なるか故に發電工事費の上に於て至便少からすとす而して其名古屋からの距離を見れば近きは五十哩遠きも七十哩であるから比較的多額の送電線路費を要せざる譯である今我國に於て五萬キロワット以上を發電する水力地點も尠くは

ないか木曾川の如き水量落差を有し運輸交通の便あり且つ船舶の碇舶に適せる港灣に近い地點は極めて稀である此時に當つて同會社は此地點を選ひ斯の如き完全なる設備を以て此事業を起すに至つた事は誠に賢いやり方と云はなければならぬ。

以上記した如く同會社の計畫は極めて大規模のものであるから此大事業を遂行する上に於ても又最も確實なる基礎を有して居らなければならぬ之れを同會社の組織に見るに差當り其資本金千七百萬圓として此内八百萬圓は名古屋電燈會社で引受け八百萬圓は同會社株主に五十萬圓は發起人に五十萬圓は公募したのである而して其收支概算書に依ると會社事業開始後初期より優に六朱の配當が出来爾後半年毎の各決算期には實に一割の配當をなす事が出来るのである其他收支の詳細に就いては同會社の目論見書に明かであるから茲には之れを省くとするか兎も角も事業開始早々六朱の配當があると云ふ事實は既に其會社の如何に有利であるかを證據立てるもので然も此有利なる大事業が只單に營利のみに走る凡庸の仕事ではなく國家民人の基礎を確立すへき最大必要なるものであるに至つては吾人共に双手を擧げて之を歓迎し大に向後の發展を囑望しなければならぬ殊に此會社の衝に當るべき重役諸氏か下記の如き東京名古屋其他に於て堅實の聞へ高き名流を網羅されて居る事に至つては大に人意を強ふするに足るものがあるのである。

社 長	福澤桃介
副社長	下出民義
常務取締役	増田次郎
同	三根正亮
同	角田正喬
取締役	木村又三郎
同	富田重助
同	渡邊龍夫
同	成瀬正行
同	伊丹二郎
監査役	八木重兵衛
同	手島敏司
同	田邊勉吉
同	志立鐵次郎

●重いお世辭や輕いお世辭

鳳山丸の浦鹽土產、全露政府の武官連と歸つてきた實業家、渡航商人と鐵類禁輸。十月十一日午前敦賀入港の鳳山丸は全露政府代表者デレベフ。アンチエフスキー。トルフエレフ。ポリヂャエフ。シユーカンの五武官及び浦鹽駐在陸軍代表者ロバートソン大佐を乗せ來れり。ケ氏時代の海軍大臣重い口調で斯う語る。デレベフ氏は海軍大臣にしてケレンスキー内閣時代の海軍大臣たりし人カーキ色の軍

服に頸髻威しいか顔に似けない優しき口調で語る。

ケレンスキー失脚後は同志各方面に四散し我々も永い間随分困苦を嘗めたか漸く今や活動の時期に達したのは愉快である全露政府使節として日本へ来たのは目下の國狀に對して容喙を求めたい爲て或はリヴォフ公等と共に同行して米國に行く事になるたらう、我々は日本へも米國へも感謝して居る

と重苦しい御世辭を残して口を緘む。次に英大佐ロバートソン氏、これは又沈黙家の露人とは違つて頗る愛嬌よく。

東京の大使館へ行つて種々打合せをしたいと思ひます西伯利もモウ心配なしてす、矢張日本軍の御蔭です(なと巧妙な外交的御世辭を弄す。重大な御使命たさうてすねと云うと「否々」と笑ひにまきらせ)發車間際だから失敬します。

と記者の手を握つてグードバイには面喰ふ。日本人の一等船客には支店設置の用務を帶て渡浦せる東和汽船の太田清三郎其他あり交々語る。

日本人の旅行券に迄チエツクの裏書を要するやうになつたので日本人は大分憤慨したかそれは戒嚴令を布いたのて形式上やるのであつて大して面倒はなかつた、只チエツク本部へ旅券を持つて行くと裏へ簡単に署名するはかりてす、日本の商人は随分入り込んで來て居るかまたこれと云つて適確にあるものをキャッチしたものはないや

うた、鐵類の輸出を禁止したので買占に出掛けた日本商人は大狼狽てす、露國從來のやり方から見るとそれも何時迄續くか疑問たか差當り大神、大倉、今永、原等の各商店は皆數萬封度持つて居る永久に出ぬ事になれば勿論大損害てす目下の中心問題は鐵道で目下某所て東清鐵道管理の聯合國會議を開いて居る我軍ては、中島少將と中村鐵道院技師が參加して居るか同鐵道は聯合國の共同管理になるたらうと聞いた西伯利に於て事業をやるには鑛山や漁業か好い、牧畜も甚た有望た、一體西伯利土民の牧畜業は幼稚極まるもので牛や羊、鶏、豚等は溫かい間は乳を搾つたり毛を摘んだりするか、冬か來ると夫れから先は勝手にしろと云ふ調子で、丸て、構つてやらないから溫かい春の來る迄には瘦衰へて見る蔭も無くなる、ソコに着目して相當の資本を投げる勇氣の人かあれば確に有利た。

●前途の發展刮目すへき北海道製鐵株式

會社

始業未だ一年有半に過ぎすと雖も早くも北海道の代表的事業として嘖々たる名聲を馳するに至りたる北海道製鐵株式會社は資本金千五百萬圓の大會社にして、其の起源たるや明治四十二年北海道炭礦汽船株式會社か銑鐵の試製を企て地を室蘭に卜して熔鑛爐を建設せるに發し試鍊の結果頗

る有望なるを知るや大正二年末一大改革を加へて作業を開始し同五年六月更に第二熔鑛爐の建設に着手せしか漸次機

運の熟するに及び茲に一層基礎を鞏固となし其の能力を増進して邦家に貢獻する所あらんと欲し翌六年三井家と共同

の下に三百萬圓の資本金を以て同社を成立し從來炭礦汽船會社經營の事業全部を繼承し同年六月第二熔鑛爐の建設を

終るや直に第三熔鑛爐の建設に着手し本年六月に至りて竣成せるか、同社は之を以て足れりとせず更に第四熔鑛爐の

建設に着手しつゝあるか明年一月之れか竣成の曉には年産額合計十五萬噸に達すべく我製鐵界の一大權威たる位置に

進み得る豫定にして、本年三月中資本金を三百萬圓より一躍千五百萬圓に増額し以て前途の飛躍に備ふると共に萬般

の設備を整備するに至れり。鑛區と工場。同社所有鑛區は試掘、採掘を合せ總坪數七千百餘萬坪の廣さに亘り、目下

稼行中の鐵山は朝鮮新安州附近の价川鐵山、北海道の虻田鐵山、青森縣下の東嶽鐵山等にして採鑛工事中のものは俱

知安鐵山、敷生鐵山等にして敷生白老鐵山には既に専用鐵道布設の許可を得、俱知安鐵山亦近く鐵道院線成らんとす

るあれは近く同社は其の原料自給上に一新生面を開くに至るべく、工場は室蘭區輪西村にありて製銑工作、骸炭、煉

瓦、洗炭等の各工場を主要工場とし北海道産鐵鑛石を基本とし之れに一部の朝鮮及び支那鑛石を調合して昨年六月よ

り本年五月に至る一箇年間に銑鑛六萬二千八百二十九噸を

製出し副産物としての礦滓煉瓦の製造額亦二百九十二萬四千餘個に及べり、因に同社現重役左の如し。

取締役會長工學博士山田直矢▲取締役栗田代作▲同工學博士牧田環▲同磯村豐太郎▲同池上伸三郎▲同高城規一郎▲同工學博士水谷叔彦▲同江藤捨三▲監查役有賀長文▲同櫻内幸雄▲相談役團琢磨

●民間兵器製造の嚆矢、株式會社日本製鋼所

同社は日露戰役終りて間もなき明治三十九年北海道炭礦汽船株式會社か時勢の趨向に鑑み資金の一部を割きて製鐵製鋼事業に投資するの計畫を樹てたるに方り偶日英同盟協約改訂せられて兩國の親善一層其の密を加へ多年我政府に軍艦及兵器を供給し來りたる英國アームストロング及ビツカースの兩社は協同して我國に一大兵器製造所を建設するの計畫を立て日英兩國資本家の商議容易に其の歩を進むるに會し、茲に三社の協定成りて、資本金を千五百萬圓とし炭礦汽船會社に於て其の半額を英國側會社に於て殘餘を分擔引受けをなすに決定し、越えて四十年七月倫敦に於て契約を締結し同年十月東京に總會を開き茲に其の成立を告げたるものに係り實に本邦民間兵器製造所の嚆矢にして又其の霸王たり。工場設備。即ち同社工場は北海道室蘭村字母戀に在り、會社成立と同時に急遽工事に着手し四十三年末大半竣了を告ぐるや工費の補足と運轉資金充當の目的を以

て社債金一千萬圓を國內に募集し四十四年一月より營業を開始せるものにして、其の工場敷地及附屬用地約六十六萬坪に達し、工場は機械、焼入及焼嵌、鍛鍊、鑄造、鍛冶、模型、煉瓦、修理の各工場及び發電所、汽鑄室、瓦斯發生所、實驗室、製圖室の十三に區分し材料倉庫、事務所等の建物之れに附屬し規模の大設備の完全せる殆んど想像に絶せるものあり。而して同社の主要製品は、海陸軍用砲々身、口徑十四吋以下各種、同砲架、各種彈丸、各種揚彈器、水雷氣室等

鑄鋼物(鑄上重量百噸以下、形狀及寸法各種)

船尾骨、船首骨、舵骨、推進軸承、砲架、タービン用材料、蒸汽機關臺其他機關構成材料、フライホキール類、發電機枠及電動機枠、採鑛冶金用機械構成材料各種、車輪の類、各種鋼塊

鍛鋼物(重量八十噸以下、形狀及寸法各種)

各種機械軸類の吸鑊、其他機關用構成材料、タービン用各種材料、艦船用諸材料の類

一鑄鐵物(鑄上重量百噸以下、形狀寸法各種)

各種汽筒、蒸汽機關構成材料、フライホキール、ロープブリー、其他各種機械ベッド類、水道及瓦斯用鐵管各種、車輪の類

一各種砲銅及黃銅(重量三十噸以下、形狀寸法各種)

船舶用諸金具、推進器、各種瓣拿類、復水器、各種軸承

類、水中發射管、魚形水雷用燐青銅金物類、砲架用材料、信管材料の類

にして、同社創立せられて我國兵器獨立の大綱完成せられたるのみならず、時局以來兵器及び軍需品の供給に全力を傾注して同社製品か逸早くも東西の戦線に其の眞價を發揮し其の實質の優秀なるに太く驚嘆を禁し得ざらしめしを思へは軍國漸く多事ならんとする際同社が多々益々精勵して社業の發展を策せんことを切望す、因に同社は本店を東京市に置き各鎮守府所在地及び大阪英國ニューカッスルに出張所を有し取締役會長高崎親章、取締役水谷叔彦、樺山愛輔、磯村豊太郎等重役たり。

●鐵市場の將來

鐵價一齊下押。夏場より初秋にかけて殆ど天井知らずの商勢を辿りたる鐵市場は秋季需要季に入り一層の大活躍を見る可しと豫想されたるに拘はらず其後却つて不勢に趣き銑鐵は一時五百二十圓に上りたるもの昨今四百八九十圓乃至五百圓見當にて取引甚た閑散の状態に在り又鋼鐵類も昨今にては高値より概して一二圓安の薄板二十五六圓、型物十七八圓、棒十五六圓見當を辛うして保合ひ居れるか商勢は概して軟調を呈し茲回復の氣配も見えず一齊に下押し模様となれり。而して其將來に就ては人氣の變化全く測り難きを以て直に之れを豫測し能はずと雖も具體的材料を綜

合するに銑鐵の如き戰前に在りて四五十圓を普通相場とし今日の如き暴騰相場を現はしたる所以のものは印度及米國

の禁出に依り其供給全く杜絶したると共に一方事業界勃興の爲め需要著しく増加したるを以て自然其需給均衡を失し此の機會に於て關西方面にては二三大商店協定して多少不自然に之れを釣上げたる傾向あり、旁先般の五百三四十圓相場は實需關係を度外視したる所謂人氣相場たるを免れず、加ふるに鋼鐵類に比較する時は殆ど無謀の割高を示し従つて之れを原料とする製鋼業は現在將來共に益々手控へ勝となり其結果銑鐵の需要は漸減を免れざる可く同時に新設中の工場にして追々火入れを行ふもの増加すへきを以て其生産漸次増加し爲めに需給狀態漸次圓滑となり旁當分は依然保合狀態を續くるの外なく或は事情如何に依り尙ほ多少の下押を免れざるやも知れず。更に鋼鐵類も現在は買氣全く銷沈し茲當分は寧ろ下押し步調を辿る可き情勢なるか其供給は米國よりの輸入舊約定品の弗々入荷ある外最近に至り新規引合ひ著しく困難に陥り政府の特許殆ど皆無の狀態となるを以て同國の事情變化なき限り將來全く絶望と見ざる可からず又内地製造は銑鐵暴騰の爲め製品か原料よりも却つて高値を保ち従つて生産著しく手控へられつゝあれは將來益々減少の外なく一方需要家筋は其手持ち減少と共に弗々買ひ出つ可きを以て將來寧ろ相當の回復を見る可き運命に在りと云ふ可く即ち不振の原因たる問屋筋の喰合ひ

一掃を俟つて冬春にかけ尠くも銑鐵相場と釣合ふ程度の上進を見る可しと觀せらる。

●鐵て泣てる市の橋梁

永代、吾妻、厩の架換工事遅る。兼ねてより東京市の宿題なる永代、吾妻、厩の三橋の架け換及電車速成案は以前、東京市會を通過したるか未だ何等の實行もなく唯内務省監督局にあると云ふことである是に付き東京市役所橋梁課の花房技師に訊けば氏は語る。何日頃實行さるゝや未だ監督局より認可かないので解らないか永代、吾妻、厩の三橋にて豫算は三千圓である永代橋を架け換へて電車を復線にし電車の無いところは敷設するので此の鋼材凡そ五十噸を要する理由である。て橋梁に用ゐる鋼材は特種なものであるから個人の入札はあるまいから勢ひ製鐵所あたりに泣き附かなければならないと思ふて鋼材は若し實行さるゝ場合にてもなつた時は或は外國の禁鐵輸出か解けるかも知れない、古鐵は未だ發表すへき時期ではないか二三の大會社から拂下けの申込み等もあるか、あれを鐵として用ゐて了へはほゝ十萬圓位のものにしかならないので、市では、あれを橋其の儘に轉用したいといふ案もある、荒川の上流の橋て架け換へる物かいくらもあるのて拂下けを止して使用するかも知れない。

●鐵研究の大講演

會員は専門家許り。鐵の權威本多博士を招して。工學に關係ある學會中最も古く最も大きい工學會と帝國鐵道協會とか主催となり廣く工學を代表する十四學會が聯合して本月十四日から六日間丸の内鐵道協會講堂で東北理科大学教授理博本多光太郎氏を招して『鐵及び鋼の組織並に性質に就いて』學界稀に見る大講演會を開催することになった、會員は何れも斯界に於ける専門家であるか本多博士は大正五年初夏帝國學士院で『鐵に關する研究』で院賞を得た程の鐵の研究者で同大學研究報告にも明治四十五年以來殆ど毎號博士の論文を見ないことはない、一寸勘定した處ても英文又は獨文で書いた三十餘の大論文がある、研究報告に對して冷淡なる日本の社會か之れを多く看過し去つた間に歐洲の學界では博士の研究に大に注意し隨分今回の世界大戰に於いて必要缺くへからざる鐵の研究マグネット製作などに利用したとか勘くなく、此の頃になつて日本でも漸く目かさめ北條前總長を通して住友を動かし東北大學に鋼鐵研究所と云ふものを創設し博士を所長にして研究を進めることになつて居る。博士の研究によつて飛行機自動車等の發火裝置を必要なるマグネットの製作か完成し獨逸製品に優るとも劣らざるものを出すらしい、之は世界に誇るべき大功績であるか今度同博士を東京工科大学の諸學會か招

聘して鐵及び鋼に關する深遠なる研究を聽くと云ふは注目すべき事象に相違ない。

●銑鐵市況軟弱

銑鐵は米國アラバマ銑五萬噸輸入の聲以來人氣一向に引立たず取引閑散にして現物は辛くも四百七八十圓見當に支へ一時の高値に比すれば百圓方の下位にあり而して明年度に於て漢陽よりの供給約一萬噸乃至一萬五千噸不足を來す可しとの事なれとも礦石充分なる供給あれば之か補充は容易なるべく市場にては最近製鐵所か銑鐵を購買すへしとの説あるも眞偽は不明にして矢張媾和説は人氣は氣迷ひを呈せり併し各製鐵所は現物の手持薄く明年上半期物は殆ど大部分先約せられ居ることゝて年内には格別の變調を來さる可きも明年に入りては時局の關係より又意外の變動なしといふへからず。

●鐵材依然落付。丸鐵薄板軟調

需要最盛期に入りたるも依然見送りの姿にて必需筋の弗々買付あるに過ぎざるより相場は保合のまゝ活氣なく就中在荷稍多き丸鐵及び不人氣の薄板は軟調を呈し媾和説の頻々傳へらるゝは最も人氣を害ねたるか如くなるも去迎外國物は一向輸入せられず製鐵所の拂下品は相當高値の爲め各手持筋は何れも強硬なるに大平造船所筋の補充材料買付を

始め其他の需要筋も此上の見送りは困難なるへければ先づ此邊を底入れとして取引の回復に連れ再び上進することならんと觀測せらる而して茲許相場は強弱に依り値開きあるも丸鐵の並時物は十五圓見當角鐵の並物は十八圓撈みを唱へ居れり。

●洋鐵類(丸鐵安) 其後講和説の頻々たるものあれとも去りとして外國物は一向輸入せられず曩の製鐵拂下げ品は相當の高値にて各手筋は何れも強硬なるに需要最盛期に入りたるも依然見送りの姿なるも需要筋も此の上見送りは困難なるへければ相場は區々ながら丸鐵の如き在荷潤澤なる爲め稍々賣崩し居る様子にて並時十五圓より十六圓見當平角も相變らす十七圓より十八圓見當を保合居れり。

●最近鐵材需給

我製鐵事業は近時漸く旺盛を告げ其價格の如き最近五百四五十圓を突破するの勢ひにて之を戰前に比較せは優に十倍餘の昂騰を示しつつあるか更に一月以降八月迄の入輸狀況を見るに前年同期に比し約二割方の減少となれり之れ英米等の禁輸に因るは勿論なるか其價格として同期間に於て二億百四十萬圓前年同期の一億九百二十萬圓に比し約九千二百二十一萬圓の増加を示し輸入數量の減少に拘らず價格は増加せる珍現象を現はせり更に一方例年對米貿易は一億六千萬圓の出超なるに反し本年に於ては約九千萬圓の入超

にして之亦禁輸の影響大部分なる事勿論なるか今戰前需要と昨年需要鐵材の對比を示せは左の如し(單位千噸)

鋼 鐵

	需要	自給	輸入
大正三年	六九〇	二八二	四〇八
大正六年	一、二〇五	五二九	六七五
銑 鐵			
大正三年	四七一	二九九	一七二
大正六年	七二三	五〇一	二三三

●東海電氣製鐵計畫

根岸鍊次郎、中居金次郎、竹村欽次郎、渡邊武氏等發起となり資本金三十萬圓全額拂込を以て東海電氣製鐵株式會社を創立する計畫を立て居れるが同社の事業は府下砂村中居製鐵所の事業を繼承して製鐵其販賣及之に附帶する事業を經營する方針にて其株式は緣故募集とし來る十月十日限り申込を締切る筈なりと。

●東海製鐵好望

資本金五萬圓金額拂込を以て九月二十日成立登記を経たる東海製鐵會社は從來盛業中の羽田工業を買收せるものにて銑鐵、鑄鐵、セミスチールの製造販賣を事業の目的とし今度の發展期待すべきものあるへしと。

●鐵材輸入激增

米國禁鐵と在荷簿を理由として銑鐵四百圓の大暴騰を演じ戦前相場に比し十倍の相場となりたるが其實鐵材の輸入は昨年より著しく増加し在荷缺乏を感ずる筈なく全く二三思惑商の買占に據り暴騰せる空相場なること判明するに至れるか其證明として本年一月以降八月に至る鐵輸入高を擧げんに其總計は二億百四十五萬二千圓にして昨年同期の一億九百二十萬圓に比し約二倍に近き九千二百二十一萬二千圓の大激増にして昨年前に於ける對米貿易は約一億六七千萬圓の輸出超過なりしか本年は一月以降七月迄に約九千萬圓以上の輸入超過の逆調となりしは其原因主として鐵材の輸入に係るものなり是れ米國禁鐵の實際に行はれざるを示すものにて何等輸入の困難なきは明白なり之に徴するも本邦の不健全なる鐵材暴騰は全く國益を無視する買占暴利者の惡業なれば政府は嚴に之を取締るの必要あり尙主に米國より來れる鐵材を擧ぐれば鐵竿、鐵條、鐵板、下線等一億四千七百五十九萬八千圓鐵筒及び鐵管九百四十六萬二千圓鐵塊及び錠三千百七十萬二千圓にして錠竿其他は昨年同期に比し六千六百三十九萬七千圓鐵筒管は五百四十二萬四十圓鐵塊錠は千八百七十四萬三千圓を増加し是以外に鐵鋼其他千二百六十九萬圓の輸入あり是亦二百九十萬圓の増加を示せり。

●淺野製鐵大計畫

製鋼工場買収。東京製鋼所の小倉製鋼工場及び敷地は今回淺野總一郎氏の手に買収せらるゝこととなり双方の間に借契約の成立を見る運びとなり製鋼會社は二十日臨時總會を招集すへし淺野總一郎氏は尙ほ同時に同工場内にある日本銑鐵株式會社の株式全部（資本金百五十萬一株五十圓半額拂込）をも買収する協議成立し銑鐵會社は來る十一日築地精養軒に於て株主會を招集すへしとの事なるか淺野氏は右の工場と敷地及び銑鐵工場を基礎となし資本金一二千萬圓の大製鐵會社を組織すへしと云ふ。

●東京製鋼利得

東京製鋼會社小倉附屬工場は今度淺野總一郎氏に賣却する事になりたるか投資約七百萬圓に對し約三割の利益ある由にて同社は此利益金二百十餘萬圓の外同地所内にありて同時に賣却せる日本銑鐵會社の株式を所有するを以て此株式は一株五十五圓のプレミアムを附せられ此益金八十二萬五千圓あり合計約三百萬圓の臨時利益ありたれば當下半年期に於て定例配當三割の外更に三割の臨時配當をなし殘金二百餘萬圓を特別積立金とし三割配當を維持する方針にて來本月二十一日臨時株主總會に提案する由。

●銑鐵も崩落

平和見越しに伴ふ各種鋼鐵材の不振は既報せしか尙銑鐵に在ても近來再製銑鐵の出廻り旺盛と相待つてツイ先頃五百圓臺を突破したるもの今や現取引四百八十圓となり先物は來年上期もの四百五十圓同下期もの三百九十五圓見當に取引されつゝありと。

鋼鐵相場の現在に付いて某當業者に聞いて見ると曰く

『鋼鐵は銑鐵と違つて餘り大した相場の變動はありませんか兎に角目下の處は保合狀態を繼續し乍ら時々騰つて行く一方で普通の鋼鐵所謂カーボンスールは日本内地に相當在荷がありますし尙戰時中に勃興した鑛業會社でも製産能率かグット昂まつた故ドン／＼品が出来るので銑鐵の様に相場が狂騰しないのである只現今全然品かない爲殆んど天井知らすの有様で騰貴しつゝあるのは高速度鋼即ちハイスビード、スチールでこれは内地の商店中河合商店で販賣して居る東郷レイレイ號か最も優良品と謂はれて居ますか英國政府でタングステン of 輸出禁止を行つた結果全然品物か來ないので相場は十貫目千六十二圓五十錢として建つて居ても品物は絶對に手に入りません最近に至つて最も鋼鐵の需要か激増した處は官廳では砲兵工廠、海軍工廠、民間では川崎造船所を筆頭に淺野、三菱兩造船所、浦賀船渠等て此等の處ても矢張り優良なる速度鋼は手に入らないので内

地品を以て間に合はせて居る様です而して此鋼鐵は需要に對して供給か十分であるとしても銑鐵から見ると非常に廉く目下の相場から四五割方騰貴しなければ銑鐵と平均か取れない譯であります』云々。

●米鐵引揚協議

二日當市入電に依れば米國は鐵材公定價格の引上に就き協議中なるか向後鐵材輸出益々困難なるへき模様なりと。

●富士鋼増資額

富士製鋼の増資限度に就いては數日前の重役會に於て現資金六百萬圓に千四百萬圓を増加し二千萬圓にすることに略内定したる由なるか尙別に二千五百萬圓計畫もありて目下調査を進めつゝある由なれば或は二千五百萬圓に決着するやも測るへからすと云へり尙工事中の製鋼爐十五噸一基は既に九月下旬より操業を開始し他の一基は二三日中に火入式を行ひ二十五噸爐二基は十一月中旬完成に至らんと。

●特殊鋼計畫續出

名古屋市を中心として近來高速度鋼の製造俄に發展し來り電氣製鋼所を始め製造工場數八箇所を數へ尙計畫中のものは日本車輛矢作水電及會社設立中の日本高速鋼業會社等あるか之等は電氣を使用すること尠くして多くはコークス

を燃料として使用し家内工業の程度に於て經營せられその規模は狹少なるを免れされとも製品は漸次改良されて優等品を得る見込ありと云ふ。

●阿蘇鐵礦經過

三井鐵山會社三池鐵業所の事業として熊本縣阿蘇郡赤水より山牧附近に亘る黒川の流域約四百萬坪の鐵鋼採掘は本年八月より開始せるか現在の採掘高は一日約百噸なるも赤水、立野間の鐵道急勾配にて一日僅に五十噸を輸送するに過ぎず左れば採掘開始後未だ二ヶ月を経るに鑛石の停滯二千噸以上に及び目下鐵道院に交渉中なるか此採鑛全部は一旦大牟田市外三池港に輸送し更に北陸道の三井製鐵所に廻送し精鍊すべく因に同鑛區は一日百噸以上を輸送し得は十年にして盡滅すへきも阿蘇全山は彼の大冶鐵山の如き無盡藏の大鐵鑛山たらんとの説あるも信し難しと云へり。

●鐵材依然不勢

鐵材界は製鐵入札の結果か漸次振はさる一方大造船所の大需要か中絶せる爲め依然漸落の餘儀なき形勢を示し棒鐵の如き昨今にては噸三百五十圓の唱へにありて米鐵輸入難の如き何等の反應をも生起せざる姿にあるも頃來安價に小需要再び賑盛となり來れるを以て今後一般に豫想さるゝ程の低落はなかるへしと觀測する向あり。

●製鋼鋼管高

東京製鋼株は六圓六十錢方跳上げ日本鋼管も一圓五十錢方上進を示せり近時現物市場に於ける製鐵株の買氣は横溢の有様なるに定期建株となれる此等の製鐵株は一向に買はれさりしか其事業成績は鐵高に伴ひ今期又頗る有望にて製鐵株の如き増配行はるへしとて殊に配當付きの期近物より昂騰を見たる次第なりと云ふ。

●銑鐵相場下向く

高値時代から二三十圓安、大阪は約十圓程高い。屑鐵拾の影響も目立つて來た。去る八月中旬品不足の爲銑鐵相場は未曾有の高値を現はしたか、爾來製鐵所からの供給か潤澤になりそののみならず、古鐵再製の技術か最近に至つて非常に發達したので相場は下向き步調となり、此數日は高値時代から比較すると二三十圓安の處で保合つて居るか右に付き某當業者の談を聞くに『八月の中旬頃は實際品不足で相場は何處まで昂騰するか見當か付かなかつた位であつたのでしたか高値と同時に各製鐵所からの供給か豊富になつて來たので相場は徐々に下向いた次第です此二三日の相場は噸(一號)

▲釜石骸炭銑 四百七十圓 ▲木溪湖銑 四百八十圓 ▲輪西銑 同値 ▲兼二浦銑 四百七十圓 ▲漢陽銑 四百八十

圓▲栗木澤炭銑 五百廿圓▲仙人木炭銑五百圓▲荒銑四百圓

等て概して二十圓 最高値時代から對比して安いのですから、鑄物用再製鐵は三百圓電氣銑四百圓です。是等の再製品は原料が古鉄力とか古釘とか總て古物の再製品で一昨年から昨年にかけて銑鐵相場が淺間山大噴火以上の勢ひで日々昂騰をして居た際、所謂古鐵拾ひと云つて市内の川や溝の中まで細民か女房兒供の一家族を引連れて盛んに漁り歩いた古鐵屑が近頃に至つて再製技術の進歩と共に一般工業家か弗々使用し始めたので、銑鐵相場が下向せる間接なる一つの原因となつた譯です。今までは此再製品は耐久力が薄弱なので餘り歡迎されなかつたのか、前申した通り技術の進歩は相當な品を作り出す事が出来るやうになつた結果、細民の手で拾ひ集められた古鐵屑が銑鐵相場を下向せる原因となつたのは一砂集中積山の感を深からしめます。猶本年暮邊り南滿經營の鞍山銑鐵が東京市場に供給され、は何しろ十五萬噸といふ呼聲です。から相場はグット下落するてせうか運賃其他の關係上日本内地市場には出て來まいと思つて居ります』云々猶大阪市場は昨今東京より約十圓高なる由。

●鐵類輸入増額 大藏省の發表に依れば九月下旬中海外より我國に輸入したる塊錠條竿板筒管釘等の合計額は八百八萬九千圓にして前年同期の七百七十五萬三千圓に比し

三十三萬六千圓の増加なり又同一月以降累計は二億一千二百四十六萬六千圓にして前年同期の一億二千四百七十三萬二千圓に比し八千七百七十三萬四千圓の増額を示せり。

●米國鐵材到着

本月二日拂曉シャトルより横濱に歸港せる郵船會社汽船賀茂丸に積載し來りし貨物七千七百七十三噸中には造船用の鋼板約四百二百噸あり右は神戸の鈴木商店及高田商會支店にて輸入したるものにして第一次船鐵交換による造船材料なるか日本郵船の汽船にて斯く多量の鋼板を一時に輸入したるは近來絶えて無かりし事にして右の鋼板は全部神戸に陸揚さるゝものにして横濱には毫も荷揚せざる豫定なりと

●米鐵輸出嚴重

本月一日當市入電に依れば米國は先年規定せる鐵優先權獲得に對し十月一日以降益々嚴重なる方針を採るべく従つて今後の輸入は愈々至難なるへしと。

●新種の鋼鐵錨鎖

戰爭需用の結果發明鍛鐵鎖より成績良好。戰爭必要の直接の結果として、新種の見事な錨鎖が現はれ、鑄鋼錨鎖と呼ばれて居る、此まで久しい間有らゆる船舶の錨に用ひられた錨鎖は手槌若しくは蒸氣槌によりて鍛合された鍛鐵か

ら成つたものであつて、鋼鐵製の鎖は過去に於て度々試みられたか烈しき壓迫又は牽引の下に其形を維持するには柔軟に過ぎ、若しくは結合點か鍛合又は接合される場合には、連結を有效的確ならしむべく餘りに硬きに過るとされて居た。處か舊來の鍛鐵鎖は色々の大さの圓い棒を曲けて作られ、やかてそれか鍛合されて、望みの儘の長さの鎖か満足に作られたのであるか、米國に於ては最近數ヶ月間の船舶建造の驚くべき膨脹の結果として、各種の大きさの種類の鎖鎖か需要せられ、遂に米國に於ける鍛鐵鎖鎖製造力か到底其需要を十分に充すことか不可能であることか分つた、斯くて今日需要に應し得る此種の鎖鎖は三分の一よりないさうである。米國に於ける製鎖界の現狀斯の如くなるを見ると、同國製鋼者及鑄造家等は直に此問題の解決に着手し、其結果として鑄型によりて鋼鎖を鑄造する方法か工夫され、それか實用的に成功することか見出されて、愈々鎖に使用し得べき殆ど如何なる大さの鎖も砂型の中に鋼鐵を注ぎ込むことによりて鑄造し得るに至つたのである。此方法によりて今日九十呎の長さある鎖は日々特に一大會社によりて、政府の爲に製造されつゝあるか、最初から數多の環を連結した一個の長い鎖を造るとも、また此等の環を別々の型によりて製造し、やかて二つの環を結ぶ爲に連鎖を造るとも出来るのであつて、この新方法の成功は既に多大の需要を見つゝあるのである。勿論此新鐵鎖鎖製造に使

用されつゝある鋼は、如何なる成分であるかを知ることか出来ないか、合金鋼鐵であるとは確實て其質は最高度のものたるべきを以て電氣爐に於てのみ造られるのである。そして鎖としては造られた後、それは他の規則正しい鋼鐵鑄造の如く、砂型から取出され、やかて獨特なる熱の取扱か與へられるのであるか、完成なる實驗によつて見ると、新種の鎖は堅固にして優越なる永續的性質を有し、打撃に對しては鍛鐵鎖よりも良好たといはれてゐる。

●特 許 特許公報、鐵鋼に關するものを摘録すれば左の如し。

第三三一六一號

(大正七年五月五日出願
大正七年九月十日特許
特許權者福岡縣大久保賴之助)

薄鐵板製造法

發明の性質及び目的の要領 本發明は熱したる薄鐵板を輾子間に壓延し相當の厚さ迄薄くなりたる時其外部を稍厚き鐵板にて挟み各鐵板間に木炭の細粉末を撒布し再び加熱して壓延する方法に係り其目的とする所は外部を挟める稍厚き鐵板を以て製品たる鐵板に龜裂の生ずるを防ぎ且各鐵板間に撒布せる木炭の細粉末を以て製品の熔着を防ぐにあり。

特許請求の範圍 本文所載の目的に於て本文に詳記する如く熱したる薄鐵板を其厚さよりも稍厚き他の鐵板間に挟み各鐵板間に木炭粉末を撒布して再び熱し輾子間を通過し以て薄鐵板を製造する方法。

第三三一九四號

(大正七年六月十日出願
大正七年九月十七日特許
特許權者米國、ゼムス、ランソン、マクウエン)

鑄鐵管

發明の性質及び目的の要領 本發明は鑄鐵管殊に地中に埋設する小形鑄鐵管の改良にして管の一端には外部に螺糸を刻み他端は少しく擴大して挿入端となし該挿入端を適合せしむる擴大端を有する接續子の他端を前記螺糸に

拾付く可くなしたる構造より成り其目的とする所は小形の鑄鐵管を容易に連結し得せしめんとするにあり。

特許請求の範圍 一、本文に詳記し且添付の圖面に付説明るせか如き管の挿入端に填料の介在により連結せられたる鐘形接續子の一端に螺糸を刻み之を管の他端に刻みたる螺糸に捻着すへくなしたる鑄鐵管 二、本文に詳記し且添附の圖面に付き説明せる如き管の一端には擴大挿入端を又他端には外部に螺糸を刻み一端に螺糸を有し他端は前記挿入部を受納すへき擴大端となしたる鑄鐵製の單獨接續子にて連結せしむべくくなしたる鑄鐵管 三、本文に詳記し且添附の圖面に付説明せる如き管の挿入端に永久的に且つ可撓的に連結したる接續子の一端に内部に螺糸を刻み之を他管の外部に螺糸を刻みたる端に捻着せしむべくくなしたる鑄鐵管 四、本文に詳記し且添附の圖面に付き説明せる如き單獨接續子の外部に多角形を形成し捻廻しの手段により接續子の螺糸部を鑄鐵管の螺糸端に容易に捻着し得可くなしたる以上請求範圍に記載したる鑄鐵管。

第三三二五三號

大正六年六月二十五日出願
大正七年九月五日特許
特許權者長崎縣野田福樂

福樂製鋼爐。

發明の性質及び目的要領 本發明は平爐の蓄熱室に於て豫熱したる空氣及び瓦斯が爐床に向て噴出する部分に偏口彎曲版を構成したる數箇の區劃を設けて激烈に旋回交錯せしむる如き構造の平爐に係り其目的とする所は該平爐の耐久性を増進すると共に製鋼作業をして所要時間の二分の一以内に製鋼を遂げしめ平爐の生産力を増加せんとす。

特許請求の範圍 一、本文所載の目的に於て本文に詳記し且別紙圖面に明示する如く蓄熱室と相通する瓦斯焰道をして空氣焰道内を貫通傾斜せしめ空氣噴出口の部分に於て偏口彎曲版を構成したる數箇の區劃を設け加熱したる空氣及び瓦斯が特に噴出せんとするに際し特に第三圖及至第五圖に於て矢を以て示す如く該空氣及び瓦斯をして施廻渦卷運動を起さしむる如き構造の日本式平爐、二、本文所載の目的に於て本文に詳記し且別紙圖面に明示する如く固定式平爐は特に左右兩噴出口を橢圓形となし又傾注式平爐に於ては圓形の噴出口を用ひ左右兩噴出口の中心線を軸として廻轉し出網する如く成し其相對する兩噴出口は爐體廻轉の都度互に相喰ひ違ふことなく

從て爐體並に蓄熱室等が大氣の爲めに冷却することなき様構成せる請求範圍第一項記載の日本式平爐。